

1 本年度の研究について

(1) 研究主題及び副題

「自ら思いや考えをもち、いきいきと学ぶ児童の育成」
～ 学力向上を図る ICT 活用や家庭学習の工夫を通して ～

平成29年度から5年間、「自ら思いや考えをもち、学び合い、いきいきと活動する児童の育成」をねらいとして研究を進めてきた。「算数科」を中心とした「学び合い」を大きな柱として、知識・技能の習得を図ってきた。

昨年度は、「学び合い」の研究を継続しつつ、「ICT活用班」と「学習指導班」を組織し、研究を深めることができた。「ICT活用班」では、「Google classroom等の活用の在り方」や「ICTを活用しての学び合い」について協議し、共通理解・共通実践していくことができた。「学習指導班」では、学力向上を図る家庭学習として、各学年で「石山こつぐん」を作成して取り組んだ。

そこで、本年度は、引き続き「学力向上を図る」ことを目的に、「ICT活用」と「家庭学習の在り方」について研究を進めていく。本年度は1人1台端末導入2年目となり、文部科学省の示した重点項目が、ステップ1「すぐにでも、どの教科でも、誰でも活かせる1人1台端末」から、ステップ2「教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。」へと上がるため、ICTを活用した授業実践に取り組むこととした。また、「石山こつぐん」の充実と効果的な活用についても研究を進めていく。

本研究を進めていくことは、本校の教育目標「ふるさと石山を愛し、かしこく、やさしく、たくましく生きぬく児童の育成」の具現化を図る上で意義深いものがあると考えている。

(2) 研究の構想

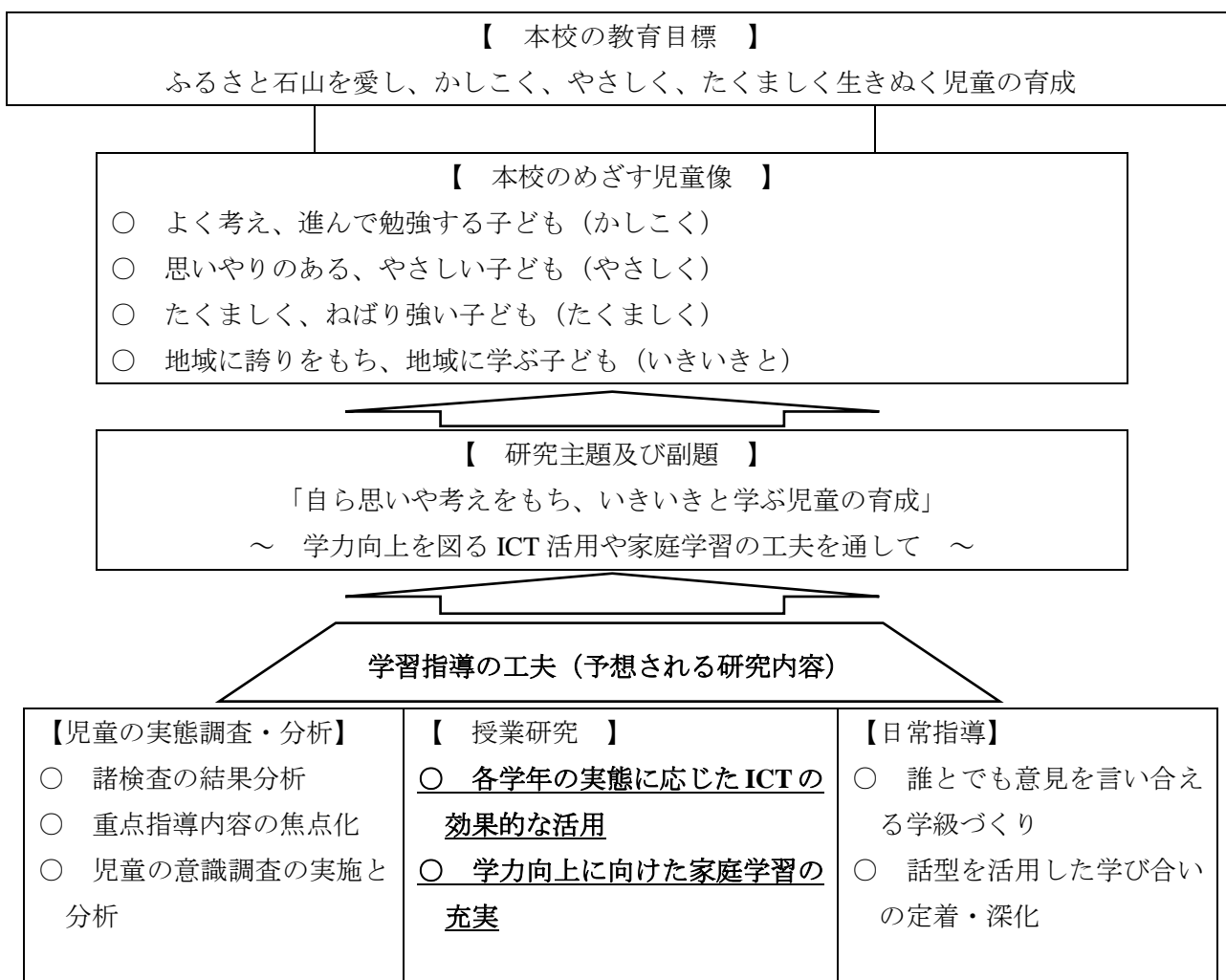
① 研究の目標

児童自らが思いや考えをもって主体的に学習に取り組み、仲間と学び合い、いきいきと学習する指導はどうあればよいかを明らかにする。

② 研究の仮説

誰とでも自分の考えを伝え合える学級づくりを行い、学力向上を図るために、各学年の実態に応じたICT活用の工夫を行い、さらには家庭学習の充実を目指せば、仲間と主体的・協働的に学び合い、いきいきと学習に取り組む児童を育成することができるであろう。

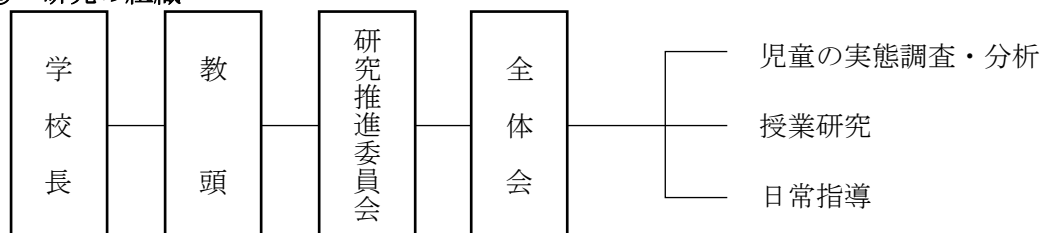
(3) 令和4年度 石山小学校 主題研究の構想



※下線部は、R3→R4の変更箇所

(4) 研究の進め方

① 研究の組織



- ① 主題研究会 … 原則として毎週水曜日とし、年間研修計画に基づいて行う。研究の方法や内容について、全職員にて研修を行う。
- ② 児童の実態把握 … 児童の学習に関する実態調査の実施と分析。重点指導事項等についての研究。
- ③ 授業研究 … 指導方法の在り方の研究。ICT活用の工夫。家庭学習へつなげる研究。
- ④ 日常指導 … 学習内容の確実な定着のための手立てを図る。学び合いの基礎を身に付け、高められる指導を行う。効果的な家庭学習を研究する。
- ⑤ 研究推進委員会 … 研究内容・方法など、研究全般の推進に関することの計画を行う。構成員は 校長、教頭、教務主任、研究主任等。

(5) 令和4年度 研修計画

月	日	曜	回	研修内容	形態	主な内容
4	13	水	①	主題研究	全体研	主題研究の方向について
	27	水	②	主題研究	全体研	研究内容・計画について ※児童意識調査の実施（1回目）
5	11	水		小中連携	3校合同	小中一貫教育研修会①
	25	水	③	主題研究	全体研	授業改善の重点指導内容について
6	1	水	④	主題研究	全体研	I C T活用・こつぐんについて
	8	水	⑤	主題研究	学年部研	第1回授業研究会事前研究会①
	15	水	⑥	主題研究	学年部研	第1回授業研究会事前研究会②
	29	金	⑦	主題研究	学年部研	第1回授業研究会・事後研究会
7	13	水	⑧	主題研究	全体研	今後の研究について
	29	金	⑨	主題研究	全体研	研究授業（6年算数）学習指導案検討①
8	1	月	⑩	主題研究	全体研	研究協議題検討、1学期児童意識調査の分析
	3	水	⑪	主題研究	全体研	研究授業（6年算数）学習指導案検討②
	24	水	⑫	主題研究	全体研	支援訪問での役割分担、全国学力調査の分析
9	7	水		支援訪問	全体研	支援訪問A
	14	水	⑬	主題研究	学年部研	第2回授業研究会事前研究会①
10	19	水	⑭	主題研究	学年部研	第2回授業研究会事前研究会②
	26	水	⑮	主題研究	学年部研	第2回授業研究会事前研究会③
11	9	水		小中連携	3校合同	小中一貫教育研修会③（授業研究会）
	16	水	⑯	主題研究	学年部研	第2回授業研究会・事後研究会
	22	火	⑰	主題研究	全体研	学力向上への実践について 研究紀要の内容・作成について ※児童意識調査の実施（2回目）
12	21	水	⑱	主題研究	全体・個人研	紀要原稿の作成 児童意識調査の分析・考察
冬季休業中			⑲	主題研究	個人研	紀要原稿の作成
1	18	水		小中連携	3校合同	小中一貫教育研修会④
	25	水	⑳	主題研究	全体研	研究の成果と課題
2	8	水	㉑	主題研究	全体研	紀要原稿の最終確認
	22	木	㉒	主題研究	全体研	次年度の研究について

2 石山小の実践について

(1) ICT 活用

学習用 PC の導入 2 年目となり、本年度は文部科学省が提唱する「1 人 1 台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージが、ステップ 2「教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。」となった。年度始めに、情報教育研修を行い具体的な取組について共通理解を図り、それぞれの学年でより多くの活用場面を設定してきた。また、「見通しをもって学習に取り組んだり粘り強く考えたりすることが端末を使ってできないか。」「グループ間の議論を深め、様々な視点で考えを深めさせることが端末を使ってできないか。」「端末をどのように使えば、振り返る内容を充実させ、次に生かせる気付きに導くことができるだろうか。」等についての視点で授業を行い、事後研究会でより効果的な 1 人 1 台端末（学習用 PC）の活用について協議を行った。また、それらの実践や協議から、各教科で考えられる 1 人 1 台端末（学習用 PC）の活用方法について協議し、日頃の授業に生かすことができた。

ア 具体的な取組

- 朝の活動でのキュビナへの取組
- 週末課題としてキュビナのワークブックを出題
- 授業での活用
 - ・ グーグルアプリ（ドキュメント、スライド、スプレッドシート、サイト、ジャムボード、フォーム）
 - ・ インターネット検索
 - ・ カメラ（写真）
- アンケートでの活用

Google ドライブ内で作成できる様々なファイル

	Google ドキュメント	ワープロソフト メモから本格的なレポートまで作成できる文書作成アプリ
	Google スプレッドシート	表計算ソフト 表作成から高度な関数を利用した集計まで可能な表計算アプリ
	Google スライド	プレゼンテーションソフト 児童生徒の発表や教師の教材作成を支援するプレゼンテーションアプリ
	Google フォーム	アンケート機能 簡単に質問フォームやテストを作成し即集計・採点できるアプリ
	Google 図形描画	図形作成 様々な図形を作成・共有できるアプリ
	Google サイト	Web サイト作成 専門知識なしで簡単にサイトを作成できるアプリ
	Google マイマップ	地図作成 無償で利用可能な自分の地図を作成・共有できるアプリ

イ 各教科で考えられる ICT の活用方法

教科	ICT 活用の内容
国語	<ul style="list-style-type: none">・ 漢字の練習をする。・ 「ドキュメント」を使って、感想文等の下書きを書いたり、推敲したりする。

算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「脳トレ」で計算練習をし、早く終わったら、キュービナやeボードで本時の学習と類似問題に取り組む。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や絵、グラフなどの資料を提示する。 ・「ジャムボード」に絵や写真を背景で貼り付け、印を付けたり付箋を貼ったりして、全員で話し合う。 ・都道府県を「キーボー島」で覚える。 ・調べたことのまとめをする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を大型テレビにつなぎ、教科書の問題や、顕微鏡映像を拡大して確認する。 ・「NHK for school」の動画を、大型テレビで視聴する。 ・観察したものを、自分の学習用PCに保存し、後のスケッチ等に活かす。 ・高学年の自由研究を、発表する。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の植物の成長を、カメラで記録を残す。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・動画でフォームや動きを確認する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・「描画」アプリで下絵の作成をする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の感想を「スプレッドシート」に書き込ませ、評価に生かす。
教科全般	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のQRコードを読み取って画像や動画を見る。 ・動画を視聴する。 ・練習問題や小テストに取り組む。 ・スライドで発表する。 ・ジャムボードで問題を作ってクラスルームで出題し、早く終わった子に組みませる。 ・授業始め、授業終わりで、キュービナに組みませる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習の下調べをする。 ・ジャムボードを活用して話し合う。 ・係活動（みんなで遊ぶ日等の内容）について、フォームでアンケートを作る。 ・道徳や学活で自分の意見を付箋で貼り、友達の見解と比べたり、考えを深めたりする。 ・低学年は入力難しいので、音声入力を活用して、ジャムボードで話し合う。 ・休み時間等に絵を描く。 ・6月24日の参観日の保健指導で活用した。（歯の健康についてのワークシート） ・独自のタイピング検定を行う。

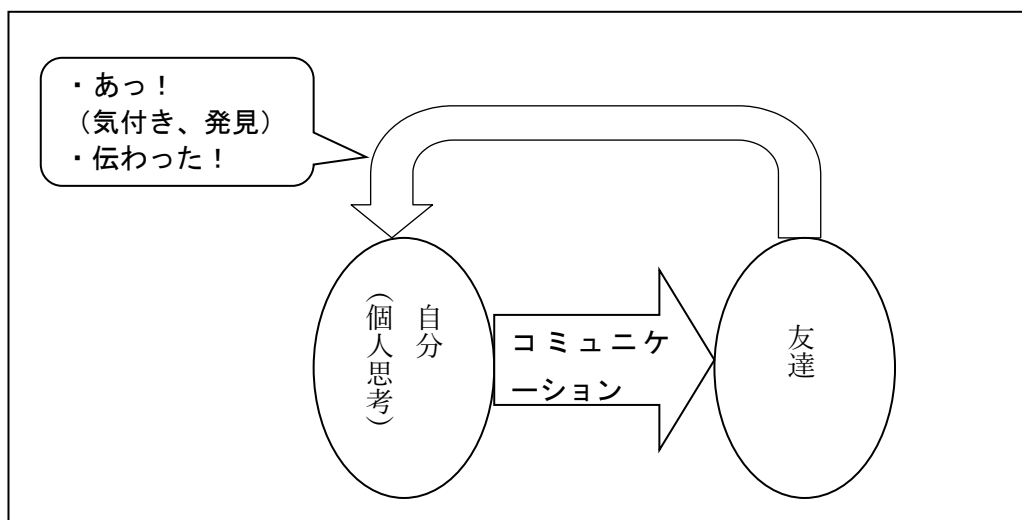
(2) 学び合い

ア 学び合いの目的

- 友達と関わる。
- 自分の考えを再確認したり、再構築したりする。

イ 学び合いとは

- 自分の考えを言葉や図、式などを使って表現する。
- 友達と関わり合うことで、自分の考えを確かめたり、何かに気付いたり、新たな考えに出会ったりする。
- もう一度、自分の考えを確認、修正する。



【図1 学び合いモデル図】

自分で考え、友達と関わり、再度個人思考に戻ることによって学びが深められる。そのために、個人思考の時間を確保する。

ウ 学び合いの成立する条件

誰とでも話ができる雰囲気作り、認め合える学級づくり等が、学び合いを成立させるために不可欠である。【図2】

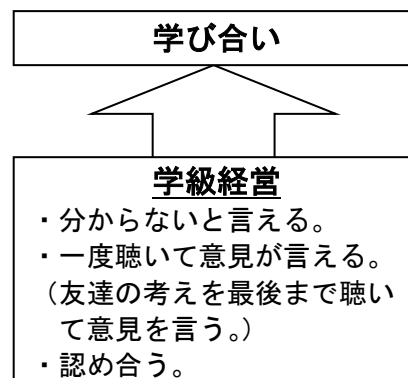
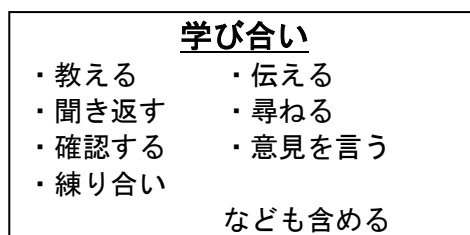


図2 【学び合いの基盤】

エ どんな姿を「学び合い」と考えるか

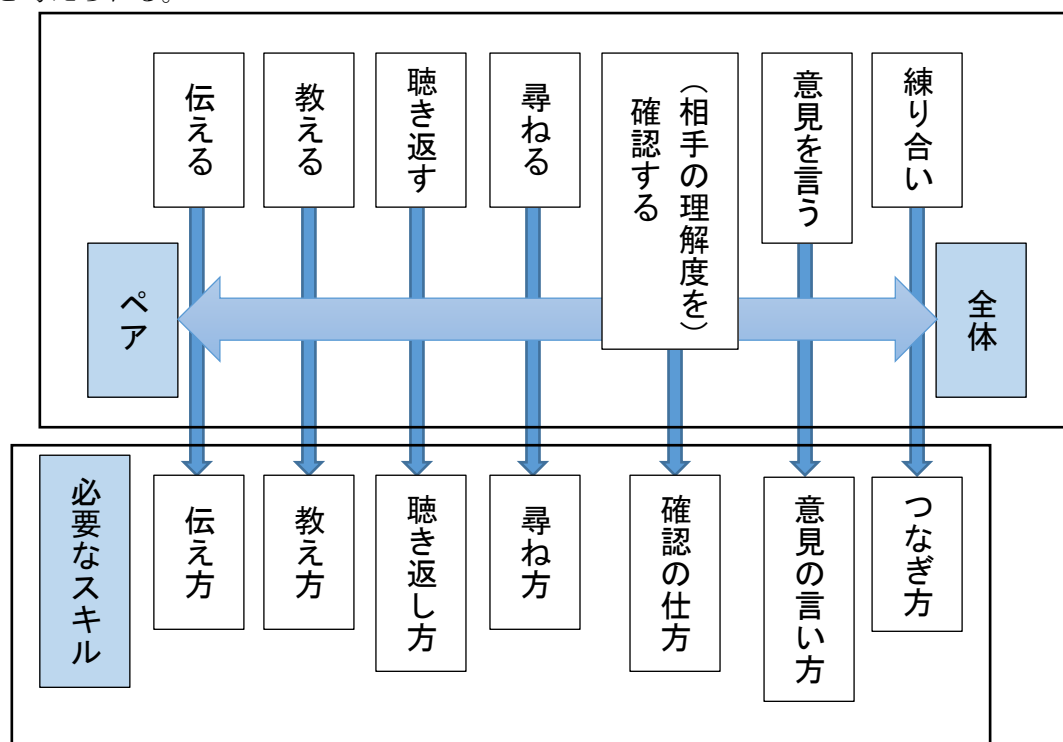
形態（ペア、少人数で、全体の場合）は学習問題等により異なってくる。個人思考の後、全体の場合で学びを深めることもあると考える。個人思考に戻ることに焦点を図るが、【図3】のように、様々なことを含めて学び合いと捉える。



【図3 学び合いの捉え方】

オ 学び合いの形態と必要なスキル

学び合いの形と必要なスキルを【図4】に示した。学び合いの形態（ペア、グループ、全体）は、発達の段階や学習問題等により異なってくる。従って、形態も各学年によって異なってくると考えられる。



【図4 学び合いの形態と必要なスキル】

カ 目指す姿

- 友達と関わり合える。
- 最終的に、自分で式、答え、図、考え方等をノートに書ける。
- 学び合い後に、はじめに書いた考え方等を修正する。
(ノートに書いたはじめの考えは、消さない。)

(3) 家庭学習

ア こつこつぐんぐんプリント

昨年度から、宿題として「こつこつぐんぐんプリント」に取り組んでいる。低学年は、学級担任が独自に作成したものを使用し、中・高学年は、本郷小学校の河野桐子先生の作成したものを使用した。取り組み方について共通理解し、各学年で実態に合わせて取り組んだ。

【「こつこつぐんぐんプリント」についての共通理解】

- 丸付けは簡単に行う。
 - ・ 10カ所
- 答え合わせは児童が行う。
 - ・ 当番や係を決めて
- 課題提示は教師の指導のもと、児童に任せる。
 - ・ 意味調べの語句や読み声の内容など
- 自由欄の取り組み方
 - ・ 短作文 ・ 日記 ・ 視写（名文・漢字ドリル・詩など）
 - ・ 学習のふりかえり ・ 要約文
- メモ・連絡欄の活用
 - ・ 連絡事項 ・ ひとつこと日記
- 裏面の取組
 - ・ つまづきの多かった問題
 - ・ 各種学力調査の過去問や類似問題

学年	取組日	丸付けの方法	やり直し	取組の工夫
1年	月、水、金	始業前。（保護者がほとんどしている）	朝の活動 休み時間	昨年度作成された石山オリジナルのものを使用している。
2年	月、水、金	始業前。（保護者がほとんどしている）	朝の活動 給食の後	表は、計算、漢字に取り組ませている。裏は、前学年（1年生）のプリントに取り組ませている。
3年	火、木	持ち帰って（保護者がしている家庭もある）	休み時間	百マス計算、授業の進度に合わせた内容に取り組ませている。
4年	月、木	始業前。百マスは、係の児童が行い、下の6つの問題は教師が行う。	休み時間 給食の後	漢字は、予習として取り組ませたり、補習として取り組ませたりしている。やり直しを個別に行っている。
5年	月、火、木	朝の活動。百マスは、係の児童が行い、下の6つの問題は教師が行う。	休み時間 昼休み時間	6つの問題については、解説をした後、やり直しを毎日行っている。
6年	月～木	朝の会。百マスは、その日の日直が答えを言い、各自で丸付けを行う。	休み時間 昼休み時間	こつぐん係が意味調べする言葉や読み声をするところを帰りの会で伝えている。

イ 家庭学習ノート

高城中校区の共通実践として、家庭学習ノートに取り組んでいる。

(ア) 本年度の取組冊数

- ・ 1 学年… 1 冊
- ・ 2 学年… 2 冊
- ・ 3 学年（さくら）… 2 冊
- ・ 4 学年… 2 冊
- ・ 5 学年… 2 冊
- ・ 6 学年… 2 冊

(イ) 取組の工夫

- ・ 学期に1回校内ノート展を行い、取り組みの上手な児童の称賛と意欲付けを図っている。

ウ キュビナ

本年度からキュビナを家庭学習として取り組ませた。教師がワークブックを作成したり、児童が各自で問題を選択したりして取り組ませた。週末課題や長期休業中の課題として出題した。